田嶋智太郎のＦＸレポート

2018.05.17 更新分　　経済アナリスト　田嶋智太郎

■　足下のドル買いは「もうはまだなり」か？

米 10 年債利回りが 3.10%台に乗せる強い動きとなっていることで、足下のドル/円は今週 15 日以降、ついに 200 日線（110.17 円）を上抜ける展開となってきている。

直近では 110.45 円まで上値を伸ばす場面もあり、すでに重要な節目に一旦到達したとの感は強いものの…なおも高止まりの展開が続く。目先の節目＝上値の目安として意識されやすいと思われるのは、一つに 62 週線（現在は 110.52 円に位置）、いま一つに昨年 11 月高値から直近（3/23）安値までの下げに対する 61.8%戻し＝110.82 円、あるいは 31 カ月線（現在は 110.90 円に位置）あたりということになろうか。

いずれにしても、そろそろ上げ一服となっておかしくない状況になってきているという感じはする。少なくとも、2015 年 6 月高値と昨年 11 月高値を結ぶレジスタンスライン（トライアングルの上辺）を超えるには、もう少し追加材料が欲しいところである。もちろん「もうはまだなり」という格言もあり、まして米 10 年債利回りが 3%台にしっかり乗せてくると「そこから目の前の景色は大きく変わる」という以前からの個人的な見立てもある。ここは「ある意味、一つの正念場」であり、普段以上にきめ細かな対応を心掛けたい。

一方、足下のユーロ/ドルは一時的にも 1.1800 ドルを下抜ける展開となってきており、想定していた以上のスピードで下げを加速させてきている。

前回更新分で想定したように、一旦は 1.1900 ドル処で下げ渋り、今週 14 日には一時 1.2000 ドル近くまで戻りを試す場面もあったのだが、そこは心理的節目と 200 日線によって上値を押さえられる格好となり、あえなく再び反落することとなった。

今後、あらためて 1.1800 ドル処を下抜ける展開となってくれば、もはや次に意識されるのは下図にも見るとおり 62 週線（現在は 1.1720 ドルに位置）、あるいは昨年 1 月安値から直近（2/16）高値までの上げに対する 38.2%押し＝1.1710 ドル、そして一目均衡表の週足「雲」上限（現在は 1.1681 ドルに位置）あたりということになるものと思われる。

目下は、週足の遅行線が 26 週前の週足ロウソクが位置するところを下抜けるかどうかの瀬戸際にあるが、とりあえずは下抜けずに切り返すということもよくある。それは、同時に週足「雲」上限の水準が下値をサポートすることをも意味するわけで、その意味でも「そろそろドル高の流れは一服しておかしくない」と思われるところではある。

ただ、ドル/円のところでも述べたように「もうはまだなり」ということもある。目下はユーロ/ドルも一つの正念場を迎えているということになりそうだ。　　（05 月 17 日　11：10）